

とりまとめ 骨子案

1. はじめに

- ・ 検討背景、検討事項

2. 感染症研究推進の現状

- ・ J-GRID 概要
- ・ J-PRIDE 概要
- ・ 健康医療戦略や関連事業の概要
- ・ 国際的なファンディング機関の概要

3. これまでの取組の成果と課題

○成果

- ・ J-GRID、J-PRIDE 成果概要

○課題

- ・ 我が国に脅威となる感染症に備えるため、対策に必須となる基礎的研究の成果の継続的な創出が必要
 - ・ 海外の感染症流行地での研究の意義
 - ・ 感染症研究の幅を広げる必要性
(国内研究者の育成、一類感染症を始めとする重症感染症のメカニズム研究、異分野融合など)
- ・ 基礎的研究の成果を、診断治療薬等の実用化やその他の社会還元に結びつけることが必要
- ・ ゲノムデータベースの今後の利活用の方向性 (効率的な研究の実施に役立つようなものにしていく必要)
- ・ 厚生労働省事業や国立感染症研究所等との効果的・効率的な連携

4. 今後の感染症研究推進の在り方について

○今後の事業の目的

- ・ これまでに形成された研究基盤と人材のネットワークが効率的・効果的に作用し、研究の幅と厚みを広げることにより、我が国に脅威となる感染症の対策に資する基礎的研究の継続的な成果創出を目指す。
 - － 研究基盤
 - ・ 海外の感染症流行地における研究基盤 (流行地でしか得られない情報、現地国との共同研究体制、研究設備など)
 - ・ 国内における研究基盤 (一種病原体の研究利用を可能とする BSL4 施設を中核

とした感染症研究拠点)

- ・ゲノムデータベース

—人材

- ・先端的な技術を使った研究の実施
- ・若手や異分野からの新規参入
- ・海外の感染症流行地との連携
- ・研究先進国との連携

○中長期的な目標（5年後、10年後）

○推進すべき基礎的研究

- ・海外の感染症流行地に常駐して実施する研究
 - ・常駐しなければできない感染症研究の基盤となる質の高い研究
 - ・複数地域での共同研究
 - ・重点疾患の設定
 - ・採択拠点のオープン化
- ・海外の感染症流行地で得られる情報等を活用する研究
 - ・海外研究拠点を持たない機関の研究者の参画
 - ・国内で実施する、重点疾患や、情報等が得られる現地の特徴や流行状況等を踏まえた研究
- ・若手等の新規参入による異分野連携・研究先進国との連携研究
 - ・一類感染症を始めとした重症感染症、AMR、ワンヘルス
 - ・新規公募課題案の具体例など（新たに着目すべきテーマがあれば）
- ・長崎大学 BSL4 施設を中核とした感染症研究拠点での研究
- ・ゲノムデータベース構築の方向性

○研究成果の実用化やその他の社会還元に向けて

- ・「出口」の考え方
 - ・（他事業・他のファンド・企業等への導出、流行メカニズム解析・流行予測・流行阻止のための提言への活用など）
- ・支援体制として必要なこと
- ・機関、研究者側の留意事項

○研究を通じた国内研究者の育成について

- ・支援体制として必要なこと
- ・機関、研究者側に求められること

○他事業等との連携について

5. まとめ